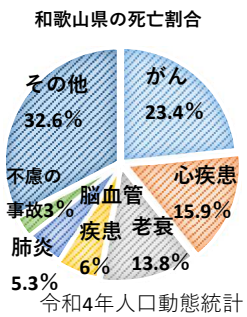
これから受けるがん検診のこと

# がん検診説明書

■ 日本人の２人に１人が生涯のうちに「がん」にかかり、４人に１人が「がん」で亡くなっています。

■ 和歌山県においても、「がん」は昭和 54 年から現在まで死亡原因の第１位という状況です。

■ 特に肺がん・大腸がん・胃がんは、がんの死亡の上位に位置しています。また、乳がんは女性におけるがん死亡の上位に位置しており、子宮頸がんにかかる方は近年増加傾向にあります。




## がん検診を受ける前に

■ 胃・肺・大腸・子宮頸・乳がん検診は「死亡率を減少させることが科学的に証明された」有効な検診です。

■ すべての検診にはメリットとデメリットがあります。がん検診を正しく理解し、早期発見・治療で大切な命を守るために、定期的に検診を受診し、「異常あり」という結果を受け取った場合には必ず精密検査を受けるようにしてください。

## がん検診のメリット・デメリット等

□ 検診を受けることで自覚症状のない早期の状態でがんが見つかり、早期の段階で適切な治療につながるなど、がんによる死亡リスクが減少します。

□ 検診は定期的に受けてください。ただし、自覚症状がある場合は次の検診を待たずに医療機関を受診してください。

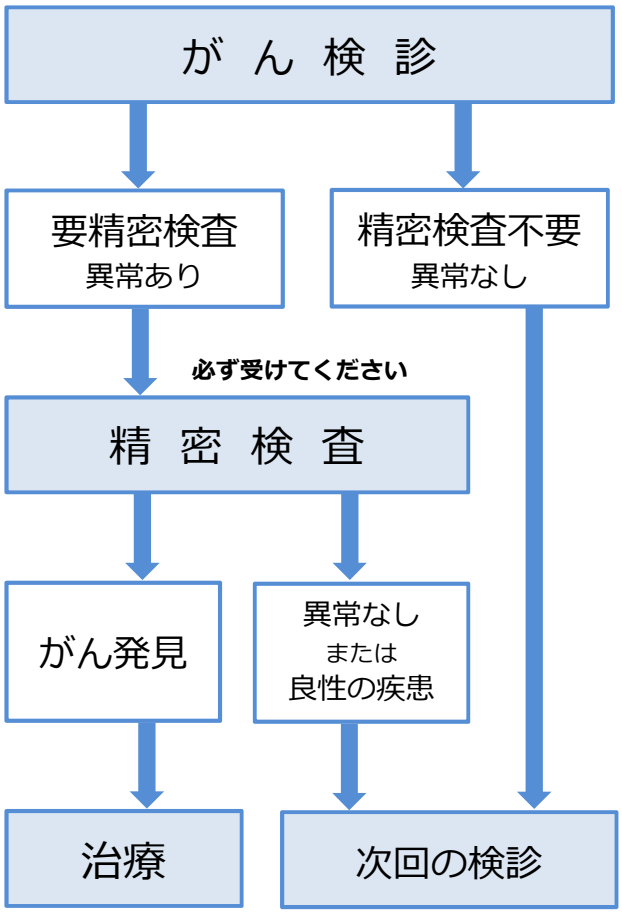
□ 検診では、すべてのがんが見つかるわけではありません。がんは発生してから一定の大きさになるまでは発見できませんし、検査では見つけにくいがんもあります。

□ 検診では、がんでないのに「要精密検査」と判定されたり、放置しても死に至らないがんが見つかったために、本来は不要であった可能性がある治療を受けなければならない場合もあります。

□ 検診は自治体と各医療機関が連携して行っています。精密検査の結果は関係機関で共有されます※

※精密検査の結果は市町村へと報告されます。また、最初に受診した医療機関と異なる医療機関で精密検査を受けた場合は、最初に受診した医療機関にも後日精密検査結果が共有されます。

## がん検診の流れ




**がん検診を待たずに医療機関を受診するべき自覚症状とは？**

胃　：胃の痛み、不快感、食欲不振、食事がつかえるなど
肺　：血痰、長引く咳、胸痛、声のかれ、息切れなど
大腸　：血便、腹痛、便の性状や回数の変化など
子宮頸：月経（生理）以外に出血がある、閉経したのに出血がある、月経が不規則など
乳　：しこり、乳房のひきつれ、乳頭から血性の液が出る、乳頭の湿疹やただれなど

がん検診や精密検査の検査方法については、裏面をご確認ください。

# がん検診と精密検査について

## 胃がん検診（２年に１回）

検診の方法

・胃のＸ線検査
発泡剤とバリウムを飲み胃の中の粘膜を観察する検査です。

・胃内視鏡検査
口または鼻から胃の中に内視鏡を挿入し、胃の内部を観察する検査です。

精密検査の方法

・胃内視鏡検査
Ｘ線検査後の精密検査は、胃内視鏡検査を行います。検診が胃内視鏡検査の時は、検診時に同時に生検（組織を採取し、悪性かどうか調べる検査）を行う場合があります。

## 大腸がん検診（１年に１回）

検診の方法

・便潜血検査
便に混じった血液を検出する検査です。
２日分の便を採取し、冷所に保存しましょう。
がんによる出血は通常は微量で目に見えません。

精密検査の方法

・全大腸内視鏡検査
肛門から内視鏡を挿入して大腸を調べます。
必要に応じて組織を採取して診断します。

・内視鏡検査と大腸のＸ線検査の併用法
内視鏡が届かない奥の大腸をＸ線検査で調べます。大腸全体をＸ線写真で様々な方面から撮影します。

## 肺がん検診（１年に１回）

検診の方法

・胸部Ｘ線検査
レントゲンにより、胸の病変を見つける検査です。

精密検査の方法

・ＣＴ検査
Ｘ線を使って病変が疑われた部位の断面図を撮影し詳しく調べます。

・気管支鏡検査
気管支鏡を口や鼻から気管支に挿入して病変が疑われた部分を直接観察します。
必要に応じて組織を採取し悪性かどうか診断します。

### 喫煙と肺

たばこを吸う人は、たばこを吸わない人に比べて、肺がんで亡くなるリスクが日本人男性で約５倍、女性で約４倍高くなり、たばこを吸う年数、本数が多いほど肺がんになりやすいという研究結果がでています。

たばこは喫煙者本人のみならず、周りの人（受動喫煙者）の肺がんのリスクもあげてしまいます。禁煙により、ご自身と周りの人の健康な肺を守りましょう。

### がん検診の対象者

| | |
|---|---|
| 胃 | ：50 歳以上の男女 |
| 肺・大腸 | ：40 歳以上の男女 |
| 乳 | ：40 歳以上の女性 |
| 子宮頸 | ：20 歳以上 |

## 乳がん検診（２年に１回）

検診の方法

・マンモグラフィ
小さいしこりや石灰化を見つけることができます。

精密検査の方法

・マンモグラフィの追加検査
疑わしい部位を多方面から撮影します。

・超音波検査
超音波で、疑わしい部位を詳しく観察します。

・細胞診、組織診
疑わしい部位に針を刺して細胞や組織を採取し悪性かどうか診断します。

## 子宮頸がん検診（２年に１回）

検診の方法

・子宮頸部の細胞診
子宮頸部の細胞を専用の器具で擦り取り、がん細胞など異常な細胞がないか調べます。

精密検査の方法

・コルポスコープ検査
コルポスコープ（膣拡大鏡）を使って子宮頸部を詳しく観察します。異常な部位が見つかれば、組織を採取し、悪性かどうか診断します。
細胞診の結果によっては、HPV 検査を行い、コルポスコープ検査が必要かどうか判断することもあります。